



地方創生
ジェンダー平等社会の実現
三島久美子
(無所属)

質問 コロナ禍における本市の地方創生について、ICTを活用した取り組みは。

答弁 地方創生への取り組みを推進する中で、ICTの活用も有効だと認識しているが、直接顔を合わせ、ぬくもりを感じられることも重要な要素だと考えている。本市としては、コロナ禍における生活様式の変化などを踏まえ、さまざまなツールを活用し、感染予防対策を徹底しながら、地方創生の取り組みを引き続き推進していきたい。



スケートボード人口増加に伴う今後の取り組み
清水明夫
(新風会)

質問 吉井運動公園はスケートボードが可能であるが、その利用状況は。

答弁 8月に約180人、9月に約420人、10月に約640人、11月には約740人と多くの人が利用している。

また、吉井運動公園のローラースケート場で活動する有志により設立された高

質問 性的少数者のパートナーシップ制度を導入するべきと考えるが、本市の方針は。

答弁 令和2年10月時点では、全国で60の自治体が入入しており、県も年内の導入を発表した。この制度は人権に関わるため、自治体によって対応が異なるべきものではないと認識している。そのため、現時点では導入予定はないが、今後の国の検討状況や取り組みを注視したいと考えている。



崎スケートボード協会が体験会を開催し、市内の小学生38人が参加した。

質問 禁止しているにもかかわらず、スケートボードをされている場所は。

答弁 金古運動広場や宇津木スタジアムの駐車場、城址公園の周辺などでスケートボードの使用が見られる。施設利用者の安全を確

保するため、多くの施設でスケートボードの使用を禁止しているほか、道路交通法により道路での使用も禁止されている。そのため、



交通弱者に対する移動支援
林恒徳
(市民クラブ)

質問 おとしよりぐるりんタクシーを他の地域へ展開する考えは。

答弁 高齢者等の交通弱者への足の確保は、本市においても重要な課題であることから、高齢化率の高い地域に注目し、倉淵、榛名、吉井地域から本事業を開始した。今後のルートの見直しや拡大については、地域からの要望や財政状況などを注視しながら検討してい



おとしよりぐるりんタクシー

看板等が設置可能な場所には、スケートボード使用禁止の看板を設置し、注意を呼び掛けている。



質問 高齢者向け買い物支援タクシーチケット交付事業の今後の展望は。

答弁 本事業は、生鮮食料



人と動物が共生できる環境づくり
丸山寛
(公明党)

質問 多頭飼育の苦情と動物虐待の通報件数は。また、その現状と対策は。

答弁 昨年度は、多頭飼育の苦情が12件、動物虐待が18件あった。動物虐待の多くは多頭飼育の現場で発見され、ふん尿の掃除をしていないなど、不衛生な環境で飼われている事例が多い。本市では、多頭飼育の中で不妊去勢手術をせず放し飼いにしていた事実を解決した事例があり、今後も早い段階での対応を心掛け、粘り強く対処したい。

質問 避難所におけるペットの取り扱い。



高齢者の移動支援の新たな仕組み
子どもが気軽に利用できる公民館

質問 おとしよりぐるりんタクシーの路線を拡大する考えは。また、高齢者の移動支援として福祉ムーバーを導入し、連携する考えは。

答弁 高齢者等の交通弱者への足の確保は重要な課題と考え、高齢化率の高い地域から事業を始めた。他の地域への路線拡大は、地域からの要望や財政状況などを注視しながら検討したい。また、福祉ムーバーは、市内の団体で実証実験中であるため、引き続き情報収集に努め、事業の効果など

について研究していきたい。子どもが気軽に利用できる、地域の人々に見守られながら過ごせる公民館の活動を促進する取り組みは。

答弁 昨年度は、地域に住む元教員が宿題を指導する放課後宿題教室を東公民館で開催した。また各市立公民館では、昔の遊びを体験する教室などを実施し、子どもと地域の大人の世代間交流を図っている。今後、地域全体で子どもたちを育てる環境づくりに努めたい。



特定家畜伝染病対策
樋口哲郎
(新風会)

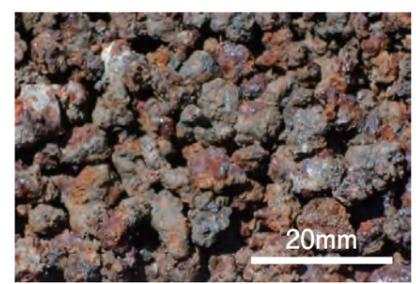
質問 CSF(豚熱)の発生による防疫措置の経過と内容は。また、現場での本市の支援体制は。

答弁 9月26日にCSFの陽性が確定し、豚の殺処分が開始された。10月1日に殺処分が終了し、9日に消毒作業を含めた全ての防疫措置が完了した。市は、県が主体となって行う防疫措

置の支援として、現地事務所開設に伴う施設や備品の管理、係員の健康観察、住民説明会の設置を行った。一連の防疫措置に市職員300人以上が従事した。

質問 西日本で鳥インフルエンザの発生が増えているが、本市の養鶏農家数と飼養羽数は。また市の対策は。

答弁 令和2年6月現在の



非鉄スラグの例



有害スラグ撤去に向けた取り組み
依田好明
(日本共産党)

質問 住宅の敷地などに使用された有害スラグを早期に撤去すべきと考えるが、現在の撤去状況は。

答弁 非鉄スラグの使用が確認された市内103カ所のうち、11月末時点で83カ所の撤去作業が完了している。残りの使用箇所についても、立入禁止や注意喚起の措置が講じられており、関係者からは、個人宅等の民有地を優先して、順次撤

場に対し、防鳥ネットの点検や鶏舎の整備、消毒の徹底など、さらなる防疫対策の強化を依頼している。



質問 住宅の敷地などに使用された有害スラグを早期に撤去すべきと考えるが、現在の撤去状況は。

答弁 非鉄スラグの使用が確認された市内103カ所のうち、11月末時点で83カ所の撤去作業が完了している。残りの使用箇所についても、立入禁止や注意喚起の措置が講じられており、関係者からは、個人宅等の民有地を優先して、順次撤



児童虐待の防止
白石隆夫
(新風会)

質問 こども救援センター開設後1年間の相談状況は。

答弁 令和元年10月1日に開設したこども救援センターへの相談は、2年10月末までに1629件あり、その内、児童虐待として受理した件数は273件である。開設前と比較し、それぞれ286件、69件増加した。

設置し、他の自治体の児童相談所への視察や聞き取りなど、児童相談所の設置に向けた調査を開始した。また、他市の児童相談所に職員を派遣し、実務経験と知識の習得に努めている。児童相談所を整備することにより、親の同意がなくても児童を一時保護できる権限などが付与され、本市独自の「行動する児童相談所」として、高崎市の子どもは高崎で守るという体制が整備できると考えている。

